

(様式8)

公共事業終了箇所評価調査

評価確定日(平成20年9月30日)

| | | | |
|--------------|---------------------|-----------|---------------------------|
| 事業コード | H20 - 農 - 終 - 1 | 区 分 | 国庫補助 県単独 |
| 事業名 | 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 | 部 局 課 室 名 | 農林水産部 農山村振興課 |
| 事業種別 | 農道整備 | 班 名 | 農村整備計画班 (tel)018-860-1859 |
| 路線名等 | 奥羽北部地区 | 担 当 課 長 名 | 長谷部 勝 |
| 箇所名 | 大仙市、仙北市 | 担 当 者 名 | 副主幹 高橋篤史 |
| 総合計画との 関連 | 政策コード: T | 政 策 名 | 潤いと安らぎを提供する農山漁村空間の創造 |
| | 施策コード: 01 | 施 策 名 | 快適で生き生きした農山漁村づくり |
| | 指標コード: 09 | 施策目標(指標)名 | その他施策関連事業 |

1. 事業の概要

| | | | | | | | |
|--|---|---|----------------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------|--|
| 事業の 背景及び 目的 | <p>本地区は、県南の奥羽山麓沿いの西側に展開する水田、畑、草地地域である。 本地域は、水稲作を基幹にし、農業の複合経営を目指して、定着しつつあるが、地区を一体的に連絡できる南北に繋がる基幹的農道が皆無で、東西の既存の道路から地域の狭曲な道路を利用したものとなっており、地域全体が結びついていない状況である。 近年の農業情勢、転作強化による畑作物の増加に伴い、流通の高速体系が求められており、流通の合理化を進め、農村の地域環境改善が図られる。 なお、農業振興と農山村地域の生活環境の改善などの効果に加え、南側に隣接する広域農道が横手市から旧稲川町へ接続していることから県内主要な観光地である田沢湖・角館地域と湯沢・雄勝地域を最短距離で結ぶアクセス道路としても大きな役割を果たすものと期待されている。</p> | | | | | | |
| | 事業期間 | 前回(H15) H2年～H18年(15年) 終了 H2年～H18年(15年) | 総事業費 | 前回(H15) 38.0 億円 終了 37.8 億円 | 国庫補助率 50% | | |
| 事業効果の 要因変化 及び 発現状況 | 事業規模 | 前回(H15) 延長 8,425m 車道幅員5.5 (全幅員7.0)m 終了 延長 8,425m 車道幅員5.5 (全幅員7.0)m | | | | | |
| | 事業費 内訳内容 (千円) 及び 要因変化 | | 前回評価計画 | 最終 | 増減 - | 理由 | |
| | | 事業費(千円) | 3,798,000 | 3,781,500 | -16,500 | 落札価格が抑えられた | |
| | | 経費 内訳 | 工事 | 3,080,000 | 3,077,269 | -2,731 | |
| | | | 用補 | 306,000 | 305,934 | -66 | |
| | その他 | | 412,000 | 398,297 | -13,703 | | |
| | 事業内容 | 用地補償費 新設工 6275m 改良工 2,150m | 用地補償費 新設工 6275m 改良工 2,150m | | | | |
| | コスト・効果対比較 | | 費用便益変化の主な要因(前回評価 終了) | | | | |
| | 最終コスト | [便益] ・年総効果額 268,799 275,150千円 (直近の作付け状況・作物単価による見直結果により走行経費節減効果の減) ・妥当投資額 4,259,889 4,360,539千円 (割引率の改訂0.055 0.040) | | | | | |
| | 費用便益 前回評価 B / C = 1.04 | [費用] 入札制度の改善により、落札価格が抑えられた ・実施事業費 3,798,000 3,781,500千円 減16,500千円 | | | | | |
| 終了 B / C = 1.06 | | | | | | | |
| 目標 達成率 | 指標名 | 農業輸送・営農交通短縮目標 | | | | | |
| | 指標式 | 1台当たりの平均走行距離短縮延長 / 1台当たり平均走行距離短縮計画延長 | | | | | |
| | 指標の種類 | 成果指標 | 業績指標 | 低減指標の有無 | 有 無 | | |
| | 目標値a | 1 km | | データ等の出典 | 奥羽北部地区農道整備事業計画書 (H14変更) | | |
| | 実績値b | 1 km | | | | | |
| | 達成率b/a | 100% | | 把握の時期 | 平成19年3月 | | |
| 指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む | | | | | | | |
| 自然環境の 変化 | <p>・道路設置断面内の法面や残土処理された箇所は緑化され保全されている。 ・住民アンケートでは、半数の人が地域景観について従前と変わらないと感じている。</p> | | | | | | |
| 社会経済 情勢の変化 | <p>・受益地となる「大仙市」は、平成17年3月22日に大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の1市6町1村が合併し、「仙北市」は、平成17年9月20日に田沢湖町、角館町、西木村の2町1村が合併した。</p> | | | | | | |
| 事業終了後の 問題点及び管理・ 利用状況 | <p>・地域間が結ばれ、周辺都市部への通勤・買い物等の利便性が向上したが、これと同時に交通量も増大し交通安全が望まれる。 ・管理主体により維持管理に差が生じており、それに対する不満、危険性を感じているため、なお一層の維持管理の充実が望まれる。</p> | | | | | | |

| | |
|----------------------|---|
| 住民満足度等の状況 (事業終了後) | 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成20年7月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に) 満足度の状況 ・住民アンケート調査結果から、当該路線は、これまでは不便であった山間部を通過していることから、約50%の農家がほ場への農業機械の進入や農作業のための移動が容易になり、市場、農業施設などへのアクセスが改善され農作物、資材の輸送時間等が縮減されたことを評価している。また、住民の約50%の人が週に1度程度は農道を利用している。加えて緊急時、災害時に対する安心感が向上したと感じている住民も51%となっている。 |
| 上位計画での位置付け | 「あきた21総合計画」における施策「快適で生き生きした農山漁村づくり」を支援する事業 |
| 関連プロジェクト等 | 特になし |
| 前回評価結果等 | 選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 |
| | 指摘事項 特になし |
| | 指摘事項への対応 |

2. 所管課の自己評価

| 観点 | 評価の内容(特記事項) | 評価結果 |
|------|--|------|
| 有効性 | 住民満足度の状況 A B C 住民アンケートで農業者からは労働時間の短縮、輸送コスト縮減において約50%の人が評価しており、日常生活の利便性、病院・公共機関への移動にも40%の人が効果を感じている。 | A |
| | 事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 | B |
| | 目標指標の「1台当たりの平均走行距離短縮延長」は、計画された道路施設はすべて終了しており、計画通りの有効性が発現されるものと考えている。 | C |
| 効率性 | 事業の経済性の妥当性 A B C 農水省の土地改良事業の経済効果算定方式により年総効果額から算定される妥当投資額を総事業費で除して出す投資効率が1.0以上を求められるが、当地区の場合は最終実施事業費に対して1.06となる。 | A |
| | コスト縮減の状況(費用便益比が算定出来ない場合) A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし | B |
| | | C |
| 総合評価 | A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 事業計画に沿って着実に施工が進み、地域間をはじめ、農地、農業用施設や公共施設等への移動時間短縮、周辺道路の渋滞緩和など幹線農道としての役割は大きく、地域住民アンケートによる満足度からも工事の成果は評価され、事業は概ね妥当と判断される。 | |

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業実施にあたり、事前の予備調査、設計段階での現場の把握、実施設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的に取り組みをし、効率的な事業執行を図る。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

総合評価の判定基準

| 総合評価の区分 | 判定基準 | 総合評価 |
|-------------|---------------------|------|
| A (妥当性が高い) | 全ての観点の評価結果が「A」判定の場合 | B |
| B (概ね妥当である) | 「A」判定、「C」判定以外の場合 | |
| C (妥当性が低い) | 全ての観点の評価結果が「C」判定の場合 | |